



題字 井口 文章  
再刊 第477号  
印刷・発行  
錦城高等学校新聞委員会  
編集室 2025

みんなでつくる  
錦城高校新聞

一面：第六十回卒業式を挙行  
合唱祭指揮者・伴奏者特集②  
二面：今年は「大運動会」も？卒業式レポート！  
在校生で校内を飾り付け

# ぼくらの青春は永遠に 60回生 涙の卒業式挙行

## 錦城最後の登校日 3年間の思い出がよみがえる

3月18日(火)、第一体育館にて第六十回卒業式が行われ、60回生471名が錦城高校を卒業した。今号では、卒業式の様子や式後の卒業生の声をお届けする。

### 校長式辞

「季節は巡り、今年もまた旅立ちの時がやってきました。校長先生は、この季節のあいさつで始まった。はじめに1年次に実施された千葉での宿泊行事について触れ、校長先生は「季節は巡り、今年もまた旅立ちの時がやってきました。」と語り、卒業式の様子や式後の卒業生の声をお届けする。



クラスで撮る最後の集合写真。担任の先生には花束をプレゼント！

## 1年間の放課後ゼミの集大成 62回生 探究ゼミ発表開催

2月26日(水)のLHRで、62回生ゼミ探究生による探究発表が行われた。

この探究ゼミでは、放課後や空いた時間に田中耕作先生の指導の下、有志が集まった62回生12人がそれぞれのテーマを設定して探究を続けてきた。今回の発表では、12名が1年13クラスをそれぞれ



実際の発表で使用したスライド

分担し、各教室で探究成果を報告した。今回は「他者を依存信頼させる方法」をテーマに探究活動を行った吉村優花さん(1E)は、探究ゼミに参加したきっかけについて「もともと興味、関心のあるものをさらに深く知りたいと思いついて参加した」と話す。「プレゼンで使うための資料の収集や自身の意見、考察を添えた論文の作成などに時間がかかりました。プレゼン作成では、聞き手

に、表現の工夫を入れたい」と発表では生徒に話し合いや質疑応答の時間をとるなどの発表内容の工夫も行った吉村さん。今後は「中高生のいじめ問題」に目を向け、複雑化している人間関係をよりよく生かす方法について探究したいという。「探究活動での経験を自分の人間関係や将来の進路に生かしていきたいです。」と意気込みを語った。(燕)

学年主任の太田剛先生は、山田さんの話を受けて「EIBS

冬合宿を挙げる。後輩たちに向けて「趣味、遊び、勉強など何事も努力できる場所は

「仲間」という時間を大切に」西村健吾さん(3B)は無事卒業することができてうれしさと笑顔で話す。ワンダフルオーケストラだという西村さんは錦城での思い出として夏

「仲間」という時間を大切に」西村健吾さん(3B)は無事卒業することができてうれしさと笑顔で話す。ワンダフルオーケストラだという西村さんは錦城での思い出として夏

校長先生はこれから多様性の中で生きていくうえで、一人一人を大切にすることが大切になると述べ、そして、これからはいかに早く正解を出すかということより正解を編み出す力が大切になってくるので、探究で磨いてきた力を活かしてほしいとメッセージを送った。

明日から大人の仲間入りをする卒業生に向けて、18年を思い起こしてみたいと呼びかけ、今まで育ててくれた親に感謝の気持ちを素直に言葉にしてほしいです」と式辞を締めくくった。

クラス代表に卒業証書が授与される

「仲間」という時間を大切に」西村健吾さん(3B)は無事卒業することができてうれしさと笑顔で話す。ワンダフルオーケストラだという西村さんは錦城での思い出として夏

吹奏楽部の記念演奏ののち、卒業生による全員合唱「旅立ちの日に」が体育館に響き渡り、60回生の卒業式は幕を閉じた。

春、出会いの季節。新学期最大の悩みは、やはり対人関係だろう。「友達作れるかな」「仲いい子とクラス離れちゃった」という不安は、幼稚園の頃から変わらず、今年もやってくる▼「特技・人間観察」の下陰キヤたる私が毎春校内を眺めていると、ときどき、無理して他人に話を合わせる生徒を発見する。相手の顔色を伺って、必ず後出しで「ああ、それ私も好き！」と言ってみたり、終始あいまいな笑顔を保つてみたり。朗らかな外装を装いながら、その水面下では常に相手の地雷を警戒して交わされる「世間話」が、どうにも苦手だ▼何に反応し、どんな風に世界を区切っているか。人の性格は、ソニーの提示したような、世界の「分節化」に似た側面がある▼絶妙に噛み合わない意見、会話の途中で気づく違和感。そういっただけなのに、「分節化の仕方」が違うのだと思えば納得できる。こちらが世界を奇数で区切っている一方、相手は素数で区切っている可能性だってある。そう考えれば、必要以上にこだわって振り回される必要はないかもしれない▼高1の春、周囲の目をあまり気にしてはいた私には、実姉にこんなことを言われた。「どんな発言をしようと、必ず2割の人は貴方の味方になる」▼働くアリは巣に2割、さぼるアリも2割いるという「働きアリの法則」は、対人関係でも適用されるらしい。どんなに頑張っても2割の人は嫌われてしまうし、我が道を歩んだとしても、2割の人は支持を得られるそうだ▼EIBSキャリアガイド編集部HP 2022年10月27日コラム参照、2025年3月21日▼「どんな状況でも仲間がいるんだ」と思えた瞬間から、自分の意見も言えるようになった。そして、クラスメイトとも一層仲が深まった気がする。もしかしら、人に気に入られようとして作った自分の虚像が、かえって人を遠ざけていたのかもしれない▼春、出会いの季節。今年の新学期も自分のペースで、のんびりまったり過ごしていくつもりである。(普)

ダンス部ステージ公演  
3月12日(水)と15日(土)、ダンス部によるSpring Stage「It's Mo」が開催された。公演では、様々なジャンルのダンスをチームごとに部員たちが踊った。記者が観た12日の公演では「スーパーマリオ」が印象的だった。

みんなが手伝ってくれたから獲得できました」2年の部で指揮者賞を獲得した永田愛珠さん(2H)は「シンプルにうれしい。努力が報われました」と受賞の喜びを語った。

「努力が報われました」ハプニングにも負けず伴奏者賞に輝く  
2年の部で伴奏者賞を受賞したのは小幡愛珠さん(2A)。「他の皆も上手かったから取れないと思っていたけど、取れて嬉しかった」と笑顔を見せた。

ウエディングドレスを身にまとって演奏  
「皆が声を出してくれたから自分もピアノで弾きたいように弾けたから、皆のおかげでもある」と感謝を述べ、「皆が素直に練習してくれて声も出してくれたから取れた銀賞だ」と喜びを語った。

# 笑顔で駆け抜けた錦城ライフ

## 60回生卒業祝会盛り上がる

3月14日(金)に60回生の卒業を祝う会が開催され、3年生が錦城生活最後の行事を楽しんだ。裏面では、会の様子をお届けする。(編集部共同取材)

60回生の卒業を祝う会は、3年生の進路内定者で主に構成された卒業を祝う会実行委員会が企画・準備から当日の運営・進行まで全て自分たちで行った。今年は宝探し、運動会、未成年の主張の三部構成。午前中の企画では、クラスごとにポイントを集めて総合優勝を目指した。



各々息の合った走りで激戦を繰り広げる

### クラスの絆で担任を救い出せ

最初に行われたのは、学校全てを会場にした宝探しゲーム「俺たちの『担任』を見つけて出せ」だ。校長先生によって誘拐された担任たちを救うため生徒は敷地内を奔走し、謎が解けた時にはクラス全員から歓声が上がると見られた。

### 借り物探しに校庭を奔走

校庭に場所を移し、前生徒会長の山田拓仁さん(3E)の開会宣言で幕を開けた大運動会。借り物競争がリレー形式で行われた。お題には「カラーコイン二車いす」「A型で左利きの人、定番の『好きな人』も。男子生徒が女子生徒を背負って走った場面もあり、盛大な盛り上がりを見せた。第一試合では3Eが、第二試合では3Jが1位を飾った。

### 各部活がしのぎを削る

次は部活対抗リレー。各部活が工夫したバトンや衣装で競った。Aレースは吹奏楽部が鈴の音を響かせ、軽音楽部がギターを持って走るなど賑やかなレースで1位に輝いたのは、出席簿をバトンとした先生チームであった。続くBレースは陸上部の俊足や剣道部の竹刀のリーチが光る中、華麗な投球によるバトンパスでハンドボール部が



個性豊かなチームが競い合った

1位を勝ち取った。Cレースでは、馬のお面を被った弓道部や、ピンポン玉を運ぶ卓球部などのなかで、流石の脚力で競ったのがワンダーフォーゲル部。バトン代わりのリュックサックを背負い、圧巻の1位を勝ち取った。迎えたDレースでは、男子運動部5チームが接戦を繰り広げた。スパイクを持ったサッカー部が本気を出し、開始から先頭をキープ。陸上競技部、野球部が追い上げを見せるも、そのままサッカー部が1位でゴールテープを切った。

## 感謝を込めて最後の贈り物を

### 生徒会とHR委員でこだわった飾り付け

入口からお祝いの気持ちを

「僕だけで完成するのではなく、在校生の多くの方に協力して貰いたい」と思いました」と話すのは、今年度の装飾を計画、担当した生徒会副会長の神田陸翔さん(1E)だ。神田さんは、例年作成しているお花紙の装飾に加え、これまでになかった風船での飾り付けを提案した。廊下だけでなく、1



一つ一つ、心を込めて飾りつけ

### 階の中央階段には、赤や金の

風船で作られたアーチも設置され、校舎がより明るく、華やかに彩られている。神田さんは、自身の思い描くイメージを細部までHR委員に伝えるなど、当日の不備が無いように万全の準備を重ねて来た。

「60回生の先輩たちの助けがなければ、この1年間を無事に終えられませんでした。3年生が喜ぶように準備から頑張ってきました」と神田さ

## 黒板アートで卒業をお祝い



1年生が作成を担当した卒業生に向けた黒板アート。クラスごとに個性豊かな作品となっており、卒業を彩る最高のプレゼントとなった。(泉)

### 3年間の思いをぶちまける

昼食は校内思い思いの場所となり、午後から行われたのは優勝クラスの表彰と「未成年の主張」だった。総合優勝を勝ち取ったのは3J。「威風堂々」がリコーダーで奏でられるなかでの表彰となった。「未成年の主張」では、弓道部副部長の山田さんが部員に伝える本音、太田剛先生に伝える愛の言葉と花束、錦城高校での3年間を振り返る漫才や、将来の幸せな家庭を誓い

## 素直な興味を追い求めて 2年探求 最終発表会行われる

### 探究の成果をみんなの前で発表

2月26日、3月5日の6限LHRにて、2年生が各クラスで探究の最終発表を行った。2年生は1学期からインスパイアハイを使ってそれぞれ問いを立て、探究を続けてきた。探究のテーマは『第六感はあるのか?』や『なぜ、計算ミスをするのか?』、『どうしたら大谷翔平を巨人に加入させられるのか?』などといった多様なテーマがあり、発表はグループに分かれて一人4分の成果発表と、質疑応答の流れで行われた。宮坂彩花さん(2D)は「自分自身じゃ思いつかないような問いを立てている人を見ることが出来て良かったです」と最終発表を振り返った。



グループでみんなの発表を聞き合った

担当の後藤知子先生は、1年生ではチーム探究をメインに取り組んできたため、今年度は個人探究に取り組んだと振り返る。個人探究に取り組むにあたって、自分自身の問いに対する探究のプロセスを伝えたいと思い、インスパイアハイを導入したそうだ。



### 「素直に探究出来ていて感心しました」

1学期は外に目を向けることを目的に、インスパイアハイにある様々なコンテンツに触れる時間を取ったという。ただ、ネット環境等でうまくいかなかったそうで、その点は反省だという。2学期からは何でも良いというテーマのもと探究を行った。なんでも良いという難しさがある中で、後藤先生は「探究は繰り返してなんぼの側面もあるので、来年度以降に今回の失敗を活かしてもらおうという意味でもとりえずやってみようという感じだ」と語った。そんな中でも、みんな素直に探究出来ていて感心したと振り返る後藤先生。全員

### 「考えることを止めないで」

探究に対して前向きに取り組める疑問を立てるのも勉強だと語る後藤先生。後藤先生は答えがある勉強とない勉強は同時じゃなきゃいけないということで、考えることを止めないでほしいと考えているそうだ。「ふと思った事を少し形にする時間はみんなのプラスになる時間だと思っています。なので、限られた時間の中でも頑張してほしいです」と2年生にメッセージを送った。(蘭)

生徒会 2.10~3.24

合唱祭実行委員会 3月10日

体育学芸委員会 3月24日

### 最後の行事を終えて

実行委員の筒井直生さん(3I)は、「準備の時は不安だったけど、盛り上がりつつ良かった」と笑顔で話してくれた。同じく委員の島田尚杜さん(3A)は仲間に向けて「感謝の言葉と、またみんなが集まりたい」と語り、委員の堀田翼さん(3A)は「みんなと一緒に過ごせてよかった。ありがとう!」とメッセージ



ネギを差し出し最後の告白!!

### パン食いで順位逆転!!

運動会最後に行われたのはデカパン食いリレー。各レースアンカーのパン食いで逆転が相次ぐ波乱のレースとなった。最終順位は1位3H、2位3G、3位3Fとなったが、どのクラスも慣れない競技に苦戦しながらも楽しんでいる姿が印象的だった。これにて閉会かと思いきや、最後に全員でじゃんけん列車のボーナスステージを楽しんで、運動会

## 政治を自分事として考える 小平市長選で「子ども選挙」準備

### 小平市長選で「子ども選挙」準備

4月6日実施の小平市長選挙にむけて、子どもも模擬選挙を体験する企画「こども選挙」が計画されている。小平市内の元PTA会長達が発起人となり、2月16日(日)に小平市中央公民館工作室にてこども選挙委員会発足式が行われた。発足式では、集まった15名



候補者への質問内容をみんなで考える

「感謝の言葉と、またみんなが集まりたい」と語り、委員の堀田翼さん(3A)は「みんなと一緒に過ごせてよかった。ありがとう!」とメッセージを送った。

今年度も錦城高校新聞をご愛読いただきありがとうございました! 来年度も皆さんに楽しんでもらえる新聞を製作するために、新入部員の力が重要です! 興味がある人は、7階生徒会室まで!